令和8年3月25日（水）　日本海新聞

新温泉「道盛邸」整備

文化と交流の拠点へ

検討委　活用案6項目、事業者公募

新温泉町は新年度、観光や交流の拠点施設として、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」を構成する文化財の一つである同町諸寄の廻船問屋「千原屋道盛邸」の整備を進める。文化財価値を保存しつつ、多目的な機能を設ける考え。整備検討委員会がまとめた活用方針を踏まえ、4月から公募型プロポーザルを実施して事業者を募り、2028年度中の完成を目指す。（松本妙子）

29年度中の高規格道路「浜坂道路2期」の供用開始を見据えた施策で、観光や交流の動線をつくることが狙い。検討委は地域住民や学識経験者、観光や文化財、浜坂漁協の関係者などで構成し、町と具体的な施設像の検討を続けてきた。

2月末に開いた3回目の意見交換会では、浜坂高生や県立芸術文化観光専門職大（豊岡市）の学生、地元住民が、邸宅の広い土間や客間、茶室、中庭などを探索。活用法として、ブックカフェ▽サークルや自主学習の場所▽スポーツジム▽物産販売▽かくれんぼやお化け屋敷のイベント開催▽若者が集う気楽な喫茶店▽昭和暮らしの体験―などを挙げ、地域活性化につなげる夢を膨らませた。

2階の客間で活用策を考える学生ら＝2月末、新温泉町諸寄の千原屋道盛邸

検討委は3月上旬、町に提言する活用方針を策定。諸寄の歴史や文化が見られる資料的施設▽住民や観光客の交流▽郷土史を学ぶ場▽新しい文化の創造▽食やアクティビティーなどさまざまな体験の提供▽飲食や休憩など安らぐ場―の6項目を柱とした。

町は公募型プロポーザルで、6項目を踏まえた基本計画を描く事業者を募る。まちづくりや文化財利用に詳しいコンサルタント、建築士などを想定しており、6月中に事業者を決める見通し。

新年度中に計画策定、実施設計に着手し、27年度着工を目指す。新年度当初予算案には関連費2823万円を盛り込んだ。28年度までの3年間で約2億270万円の事業費を見込む。同予算案は町議会3月定例会最終日の25日に採決される。

町生涯教育課の担当者は、維持経費や町負担の軽減の検討も重要と認識。「持続と自立ができる管理運営の在り方も同時に考えていく」と話した。

ミニクリップ

千原屋道盛邸（ちはらや・みちもりてい）　新温泉町に残存する廻船（かいせん）問屋3邸宅の一つ。1803年創業の「旧千原屋道盛家」は、江戸から明治にかけて廻漕（かいそう）業を営み、諸寄砥石（といし）や海産物を主な積み出し荷とした。明治以降は臨海学校の宿泊施設などに利用。昨年12月、所有者が町に無償で譲渡した。1089平方㍍、木造主屋、土倉、倉庫など11棟。